

北見北斗高等学校（定時制）「令和４年度 学校経営シラバス」

1 基本とする考え方

□ <u>北見北斗高校の建学の精神</u> 文武両道 質実剛健	□ <u>北見北斗高校の教育目標</u> (1)目標を持って意欲的に生きる生徒 (2)礼儀を重んじ心豊かに生きる生徒 (3)勤労を喜びたくましく生きる生徒	□ <u>北見北斗高校の school mission(概要)</u> ○集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成 ○望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成 ○建学の精神を身に付けるべき不易の価値と踏まえ、将来自立し共生できる生徒の育成 ○協働する力や考えてやり抜く力を磨く生徒の育成	□ <u>中期目標（令和４年度～令和８年度）</u> 「本校での学びを生かし、豊かな人間性、望ましい勤労観、協働する力、しっかりしたコミュニケーション力を身に付け、様々な課題に挑戦し、将来社会において自立し共生できる生徒の育成」
--	---	--	--

2 育成を目指す資質・能力

資質・能力		関連する word、説明など	資質・能力		関連する word、説明など
1	基礎力	知識・数量・言語・情報を正しく読み取る力（新聞・教科書等を理解する力）	5	向上力	失敗を恐れずやり通す力、回復力、自己肯定力
2	調査検討力	分からないことを調べたり、異なる視点から検討する力	6	共感力	多様性や異なる意見を認め他者とのつながりを意識する力
3	説明力	筋道を立てて考察・説明したり、自分の考えを分かりやすく伝える力	7	規律力	ルールやマナー、モラルを守る力、感情をコントロールする力
4	キャリアプランニング力	キャリアに対する意識をもち、キャリア向上を目指す力	8	協働力	周囲と協力し社会参画しようとする力、コミュニケーション力

3 令和４年度の具体的取組方針

サイクル		A（アクション）		P（プラン）		D・C		A	
		重点	改善方策（R3年度の学校評価結果等を踏まえて）	今年度の学校経営方針	左記の目標達成のための評価の観点＝〔学校評価自己評価項目〕				
教 育 活 動	学 び に 向 か う 姿 勢 の 重 視	(1) 将来社会において自立し共生するため、教科等、様々な場面で育成を目指す資質能力の向上に努める。 (2) 新教育課程を実施し、改善へ向けて点検を行う。 (3) 観点別評価の推進や年間シラバスの活用による授業改善を図る。 (4) ICT の活用など、生徒の状況に応じた学びを提供する。	①「学びに向かう姿勢」の重視 ア基礎力や調査検討力、説明力等の資質能力を意識した教育活動を推進。 イ主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善。 ウ観点別評価の研究により生徒の力を引き出し、認め、学びに向かう姿勢の向上につなぐ。 エ ICT の活用を推進する。	ア知識・技能などの基礎力に加え、調査検討力、説明力などの育成をねらいとした学習内容の工夫・改善が行われている。 イ主体的・対話的で深い学びの視点から連携を図り、授業の工夫改善に努めている。 ウ観点別の評価について生徒に説明し、学びに向かう姿勢の育成に繋がっている。 エ ICT を活用した学びの提供に努めている。	【北斗高校学校評価システム】 中間反省 10月 ↓ 学校自己評価 11月～12月 ※補充資料（保護者アンケート等） ↓ 結果分析・改善方向性 2月 ↓ 学校関係者評価 （学校評議員会） 2月 ↓ 年度末反省 2月 ↔ 改善方向性の決定 2月 ↓ ホームページでの公表 ↓ 次年度学校経営シラバスの策定 3月上旬 ↓ 各分掌・学年の次年度の目標、 評価の観点、実施計画の策定 3月中 ↓ 各教科の目標決定 ↓ 次年度の教育計画の作成 ↓ 学校職員人事評価 4月～ 今期の個人の具体的目標 ・学習指導 ・生徒指導 ・いじめ対応 ・校務分掌 ・学校設定項目				
	育 活	に ケ ー リ ア 学 習 の 推 進	(1) 全ての教育活動で、向上力、共感力、規律力、協働力の育成を意識した指導を継続する。 (2) 特に、生徒会等が中心となる北定祭、北定フェスティバルなどで説明力や調査検討力も含めて伸ばしていく絶好の機会とする。 (3) キャリア学習や教科等で、在り方生き方を考えさせる。 (4) 不登校等個別・特別な配慮を必要とする生徒の組織的対応を継続。 (5) 先生やほっと等生徒理解ツールを活用し生徒理解に努める。	①「学びに向かう姿勢」の重視 ②豊かな人間性やコミュニケーション力の育成と個に応じた指導の推進 ア主体的・対話的で深い学びや観点別評価の視点により生徒の力を引き出し、認め、求められる資質能力など豊かな人間性の育成に努める。 イ個別・特別な配慮を必要とする生徒への支援の継続。教育相談の継続や共感力・協働力の育成。 ウ各種検査等の情報を活用し生徒理解に努める。					ア授業・特別活動等において、向上力、共感力、規律力、協働力などの育成を意識し、教職員の共通理解のもと活動の充実に努めている。 イ各種行事等でコミュニケーション力や共感力・協働力を育むよう適当な支援に努めている。 ウキャリア教育や教科等で在り方生き方を考えさせる取組の充実に努められている。 エ家庭や関係機関との連携や協力し、特別な配慮を必要とする生徒や不登校傾向の生徒に対して担任・生徒指導部・保健室等組織的な支援を行っている。 オ各種検査も活用した生徒理解に基づいて、生徒の悩み（いじめ等も含む）に正対した教育相談に取り組むとともに、様々な場面でカウンセリング的関わりが行なわれている。
動	リ ア の 教 育 の 工 夫	(1) キャリアプランニングを意識した学びを推進し、将来の自立に向かう姿勢の育成に努める。 (2) アルバイトも含め社会体験を大切にするとともに学業との両立について指導継続が必要。 (3) 個に応じた進路指導を継続する。	②豊かな人間性やコミュニケーション力育成、個の指導 ③社会とのつながりを実感できるキャリア教育の工夫 ア社会と向き合うためのトレーニング、キャリアプランニングを意識した学びを推進。 イキャリア学習や生活体験発表等の活動をとおり、在り方生き方を考えさせる。	アキャリア指導とコミュニケーション力育成の観点から、進路実現に向け生徒の学びに向かう姿勢の育成につなげている。 イ社会で自立・共生して生きる重要性を理解の支援に努めている。 ウキャリア学習の場面で個に応じた在り方生き方を考えさせている。					
	健 康 安 全	(1) 自己管理の大切さの理解やスマホやゲーム依存からの脱却に向けた指導を推進する。 (2) 安全教育に関して、一斉指導に加え個別指導の充実に努める。	②豊かな人間性やコミュニケーション力の育成と個に応じた指導の推進 ③社会とのつながりを実感できるキャリア教育の工夫	ア心身の健康に関する指導を充実し、自ら健康増進に励むよう啓発している。（薬物、歯科、視力、内科、運動、アルバイト等） イ性教育、交通安全、防災に関する効果的な安全教育を行っている。					
学 校 運 営	組 織 運 営	(1) 情報発信の取組について工夫を加え継続する。 (2) 保護者、同窓会や地域との適切な連携に努める。	⑤保護者・地域等との連携 ア保護者、同窓会、地域との連携推進。 イ本校の取組についての情報発信と理解促進。 ウ外部に対してはチームで対応。同僚性の意識。	アホームページや「北定だより」、報道メディア等を通し、定期的に学校の様子を家庭や地域などに伝えるよう工夫・改善がされている。 イ生徒の状況について保護者と連携を取っている。 ウ報告・連絡・相談が教職員間で日常からされており、同僚性が高まっている。					
	教 職 員 の 資 質 向 上 と 服 務	(1) PDCAサイクルを活用し効果的・効率的な業務遂行の具現化に努める。 (2) 校内研修の継続。	④業務効率化に向けた工夫 ア業務効率化の工夫（PDCA、スクラップ、輪番、外部人材の活用等）。 イ情報共有と声かけ、困り事の共有、同僚性の意識。	ア学校、分掌・学年、教科がPDCAサイクルを意識して改善を図っている。 イ主体的に研究と修養に努め、自己の資質能力を高めている。 ウ交通法規等の法令を遵守するとともに、体罰防止等の服務規律の保持にお互いに気をつけている。					